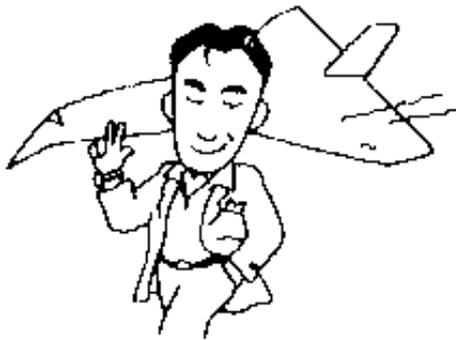


月間基本料金ゼロ！ 1分10円の同期64K。 ドライなサービスは 使い方次第で 結構おトク？



第6回 アスキーインターネット編



アスキーインターネット接続サービスは「コンコルドを自家用機にした気分」？

archie：目的のファイルがどのanonymous FTPサーバーにあるのが調べてくれるツール。ファイル名はワイルドカードでもOK。

finger：インターネットに接続されているマシンにあるユーザーの情報を検索するツール。古くからありインターネット標準のツール。個人に対する情報検索が基本的利用方法だが、マシン（& 時期）によっては「積雪情報」を提供しているサイトもある。

whois：Network Information Center（NIC; JPNICやInter NIC）から、ドメイン/管理者などの情報を検索する。NICに登録されている、ほとんどの情報を検索できる古くからのインターネット標準のツール。

注：このキャンペーンは6月末日で終わった。

◎2種類あるアスキーのインターネット接続

6月某日、家に帰ってくると担当編集者のS氏から留守番電話が入っている。

「Sですけどぉ～、また電話しますぅ～」
となんだか元気がない。どうしたんだろう？
……と電話すると、どうやら風邪をひいたらしい。元気のないS氏曰く「ううんと、今月はアスキーということで、よろしく。オンラインサインアップの電話番号も雑誌の広告ページにあると思いますから……ゲホゲホ、ズルズル（これはウソ）」

というわけで、今月も簡単に決まってしまった探検ターゲット。さあ、いつものように雑誌の広告ページを……と探してみたら、アスキーのインターネットの広告は2種類。読んでみると、どうやらアスキーでは2つの経路でインターネットにアクセスできるサービスを提供しているようだ。

1つはパソコン通信の「アスキーネット」に申し込むというやり方。

利用者は、アスキーネットのパソコン通

信サービスを利用しながら、インターネットにもアクセスできる。これだと、初回登録料：個人3000円（11D）/法人5000円（1法人）、ネット使用料：基本料金2000円/月（5時間まで）、5時間以上20円/分、通信速度：300～28800bps、アクセスポイント：全国27か所（1200/2400bpsのみ）。月間基本料金はかかるが、パソコン通信を楽しみながらインターネットを使うことができ、全国27か所にアクセスポイントがある（ただし2400bpsだから、インターネットをフルに使うには、ちとつらい）。

問題なのは、このサービスで使えるのがmail、telnet、FTP、NetNews、archie、finger、whoisというラインナップで、WWWが使えないこと。しかし、広告によると雑誌についているキーワードを登録すれば「アスキーネット初回登録料が1000円割引になります」のだ。これにはソソられるものがある（ほんのちょっとだけね）。注

もう一方のインターネット接続サービスは「コンコルドを自家用機にした気分」という広告のほうのサービスである。

こちらのほうは加入料金：1000円（1メールアドレスを含む）、接続料金：10円/分だけ、という安さで天下無敵(?)のダイヤルアップIP接続サービスが利用できる。しかもV.34/V.FCの非同期28.8Kbps接続に加えて、同期ISDN64Kbpsもオッケーだ。

しかし、うまい話には裏がある……というわけで、残念ながらこのサービスのアクセスポイントは東京1か所のみ。また、ISDNの非同期接続(38.4Kbps)はない。

さて、パソコン通信ではもはや老舗のアスキーネットだけど、今さらごちゃごちゃしたBBSに出かけるのも面倒だしな～。WWWが使えるという点を考えても、やっぱりこっちかね？ それにテキ(=編集者S氏)は風邪をひいて元気がない。当然、先月借りた64K同期接続用のISDNカードのことも忘れていたよだし、今月も64K同期でいけば……ふっふっふ、もう私のものだぁ～。やっぱりこっちを選んで同期64Kbps接続に挑戦することに決定!(なんか動機が不純)。

そこで、さらに広告の説明を読んでも、「メールアドレス追加サービス(1アドレス/500円)」というのがある。これはどうやら契約1つで、2つ以上のメールアドレスを作ってくれるものらしい。別のところに「法人もメールアドレスの追加発行ができるため、1契約で部署単位の利用が可能です」とあるから、これはなかなか合理的なオプション。もっとも「同時に複数ログインした場合は、それぞれが接続した時間に対して接続料金がかかります」なのだ(当たり前だが)。

ではクレジットカードを手元において、さっそくパソコン通信で入会申し込みをすることにしよう。

🌀 今回はオンラインの説明をちゃんと読む

パソコンにモデムを接続し、一般的なパソコン通信の通信条件で端末ソフトをたちあげる。アクセス電話番号は03-3406-0813

で、これはパソコン通信「アスキーネット」へのオンラインサインアップと共通のようだ。ただし、インターネット・サービスのサインアップ時には「login:」プロンプトで「dialup」と入力することになる。

Shift-JIS、JIS、Japanese EUCのうちから自分の使っている文字コードを選択して「インターネット接続サービスサインアップセンター」に入り、まずは「1:サインアップセンターのご案内」を読んでみると、個人で申し込む際に利用できるクレジットカードの種類が出てくる。利用できるのは……

VISA、JCB、UC、DC、ミリオンカード、ダイナース、アメリカン・エキスプレス、日本信販カード(アスキーカードを含む)

……だが、これだけあればどれか1枚くらい該当するカードはあるだろう。

次は「2:サービスのご案内」の中の「アスキー・インターネット接続サービス」についての説明。この中で気づいたのが……

当社メールサーバーやニュースサーバー(95年6月頃開始予定)も付加料金なしでご利用いただけます。

……というくだり。これはInfoSphereでも同じだったけど、やっぱりネットニュースって扱い低いんだな～。でも近日中に接続されるらしいから、とりあえず大きなデメリットはなし、と(後から送られてきた書類によれば『7月4日からサービス開始』ということで、めでたしめでたしである)。さらに、ソフトウェアとしては……

TCP/IPプロトコルで使えるPPPをサポートする接続ソフトウェア

メールハンドラー(POP3、SMTPサポート)

ニュースリーダー(NNTPサポート)

その他、必要に応じて、FTP、telnet、archie、WWWブラウザ等



残念ながらアクセスポイントは東京のみ。



VISA、JCB、UC、DC、ミリオンカード、ダイナース、アメリカン・エキスプレス、日本信販カードが使えます。

V.34/V.FC：2つとも28,800bpsが特徴であるモデムプロトコル。ITU-T(旧CCITT)が策定したV.34(標準)と、米国RockWell社独自のV.FC(V.Fast Class:業界標準)。V.FCは早期に登場し現在数多く普及しているが、今後V.34に置き換えられていくと見られている。

同期ISDN64Kbps：いま企業が引いている専用線は64Kbpsがほとんど。つまり、専用線を占有したくらの速度がある(が、体感的にはそれ程でも、との意見もあり)。

ISDNの非同期接続(38.4Kbps)：ISDNを利用するうえでは、非同期38,400bpsと同期64,000bpsの2つがある。非同期38,400bpsはRS-232CでもOKだが、同期64,000bpsは専用の増設カードがISDNダイヤルアップルーターが必要。

ニュースサーバー：NetNewsを読むためには、ニュースサーバーが必要なのはいうまでもない。anonymousFTPやWWWと違って、各組織のニュースサーバーは基本的に公開されていない。つまり、プロバイダーが用意してくれないとニュースが読めない。

InfoSphere：NTT PC コミュニケーションズが行っているインターネット接続サービス。

メールハンドラー(POP3、SMTPサポート)：プロバイダーのメールサーバーに届いている電子メールを読むプロトコルがPOP3(Post Office Protocol Version 3)。電子メールを発信するプロトコルがSMTP(Simple Mail transfer Protocol)。

NNTPサポート：Network News Transfer Protocolの略。ニュースサーバー間でニュースを転送するのに使われているほか、ユーザーがニュースを読みだり投稿したりするのに使われている。



やっぱりオンラインサインアップといっても“即ID発行”というわけにはいかない。



90日間ダイヤルアップIP接続しないと、登録がキャンセルされる。

機能が停止します：アスキーに問い合わせたところ、加入規約には書かれているが、実際には行っていないとのことだ。

.....が必要との記述があるが、定番のものばかりでアテ（オマケCD-ROM）もあるから安心だ。

ところで「接続アカウント及びパスワード」の項目に.....

本サービスに接続するための接続アカウント並びに接続パスワードは、加入手続き後、ご郵送いたします。

.....とある。うーん、やっぱりオンラインサインアップといっても“即ID発行”とはいかないわけね。ま、ID発行までにどれくらいかかるのか、待ってみることにしようっと。

次に「電子メールについて」の項目を見ると、注意しておかないとまずいことが書いてある。

・到着メールは、到着後1か月間はメールサーバー上に保存いたしますが、1か月を過ぎますと自動的に削除されます。

・メールアドレスは、接続アカウントとは別のものです。加入手続き時の姓名を元にキャラクターを付加、削除し、システム側が自動的に発行いたします。なお、メールアドレスの変更はお受けしておりません。

.....というわけだ。ま、実用上、1か月以上もアクセスしないことはないだろうから（ひょっとしたら長期の旅行なんかに出かけて.....なんて考えてみるが、そんなこと、ないない）差し支えはないだろう。

問題があるとしたらメールアドレスのほうかな～？ パソ通並みの覚えにくいメールアドレスを割り当てられたりしたら、悲惨だけど、名前を元にしてるわけだから、へんだったら親のせいだ（？）。

と、ここまで読んで、低料金にするために結構ドライに割り切ってるな～とは考えたが、もっとすごいのが「アカウントの失効」というところ。「90日間ダイヤルアップIP接続が行われなかった場合、登録は失

効します」のだ！

しかし、これも見方を変えてみると便利かもしれない。知り合いの某氏などは、アメリカ出張の際に現地のパソコン通信サービスに加入してみたのはよいけれど、時差ボケと疲労でパスワードを忘れてしまい、帰国してから一度もアクセスしていない。にもかかわらず、それ以来毎月、月間基本料金がクレジットカードから引き落とされ続けてるらしい。でもって、当然解約のやり方もよく分からないという悲劇の状態.....。でも、この場合、月間基本料金もないわけだから、面倒になったらそのままほおっておけばいいことになる。うーん、ズボラな誰かさんにはピットンコ！

ここ以外でひっかかったのは加入規約「8:本サ - ビスの保守」のところにある.....

電子メールの送受信については、毎月1回弊社の定めた日時に定期保守点検を行うため機能が停止します。

.....という記述だけど、まあメールが消えてしまうわけじゃなく（ひょっとして消えちゃうこともあり？）そんなに気にすることでもないだろう、と考えることにした。

🌀 キーワードって何だっけ？

最初からきっちりと説明を読んだので、ちとお疲れモードだが、さあ、サクサク加入申し込みをやってしまおう。

加入規約に同意するかどうかを尋ねられた後、名前、性別、生年月日を入力する。ちょっと面倒なのは「お名前のフリガナを半角のカタカナで入力してください」というやつ。某OS系の人なら何とも思わないのかもしれないが、こちらは半角片仮名なんて慣れてない。どうやって変換したらいいのか、苦戦してしまった。

これが終わると確認を求められるが、誤った箇所があれば項目番号を指定して訂正できる。

続いては住所と電話番号、さらにクレジットカードの登録だ。クレジットカードの番号入力の場合には、ふつう4桁ごとに区切ったり、ハイフンでつないだりする 경우가多いが、ここではストレートに16桁の数字を入れることになる。これはちょっと注意が必要。

もう一度登録内容の確認を求められて、これでおしまいか、と思ったら……

キーワードをお持ちの方は、キーワードを入力してください
お持ちでない方は、リターンキーを押してください

……というプロンプト。

あれれ？ パソコン通信の申し込みのほうには「キーワードを入力すると割引」というサービスがあったけど、ダイヤルアップIP接続にもそんなものがあったかな？ と焦ったが、どこにもそんな記述が見つからなかったのでやむなくリターンキーを押す。

これはパソコン通信の申し込みと同じ登録プログラムを使っているからなのか、はたまたどこかで（おそらくアスキーの雑誌あたりで？）特別キャンペーンなんかをやっているのだろうか？ と考えてしまう。ともかく、もし読者の方が申し込みうかな、なんて考えた場合は、そこいらをちゃんとチェックしてみることをお勧めしておく。

これでオンライン・サインアップはおしまいだ。後はトラブルが起こった場合のことを考えて、10桁のお問い合わせ番号をメモしておこう。

⑨ 意外に速かったIDの発行

まあ、これまでの感じだと1週間から2週間くらい待たされるのかな～。とりあえず気長に待つことにしよう……。なんて考えていたら、とんでもない。なんと週末を挟んで5日でIDが送られてきてしまった！ えらいぞインターネット事務局！

届いたパッケージにはモデム回線の大幅増設やニュースサーバー開設などの「お知らせ」のほか、接続アカウント、接続パスワード、Mailアカウント、Mailパスワードなどが記載された「ダイヤルアップIP接続サービス申込登録書」、そしてA4判40ページだでの「接続ガイド」が入っている。

さっそく気になっていたMailアカウントのところを見てみると、どうやら「ファーストネーム」+「-（ハイフン）」+「ラストネームの頭文字」+「二桁の番号」で定義されているようだ。まあ、これならいちおう合格だ。

次に「接続ガイド」を開いてみると、さすぐに出版社をやっているだけあってきちんとした構成。第一章の「接続に必要な環境とパラメータ設定」から始まって第五章の「サービスセンター（オンライン）とサポートについて」まで（素人に耳慣れない語句の説明はほしい気もするが）実用上は十分な内容と言っている。

第一章の「ダイヤルアップ接続に必要な機器」の項目ではアスキー側が推奨する機器（モデムあるいはISDNアダプター）とソフトウェアのリストがあげられ、第二章の「接続ソフトウェアの設定と接続例」では、Windows + Chameleon 4.0J、Windows + Internet Office 3.0J、OS/2 warp + IBM Internet Connection（以上非同期28.8Kbps）、Macintosh + Internet ConnectPPP、Windows NT 3.5（以上非同期28.8Kbpsおよび同期64Kbps）など、それぞれの接続例が画面イメージを使って説明されている。手持ちの組み合わせが合致する人にはすごく便利だ。

残念ながら、私の定番、MacTCPとMacPPPという組み合わせの設定の説明はない。先日来届えてきたISDN同期接続の腕（おいおい、たった1回しかやってないぞ）がここで役に立つ。

手順は先月号で紹介したInfoSphereの場合と同じなので簡単に書いておこう。

まずは64K同期接続用のカード「Time



なんと週末を挟んで5日でIDが送られてきた。偉いぞインターネット事務局。



さすが出版社をやっているだけあって、接続ガイドはきちんとした構成。

Chameleon : 米国NetManage社のWindows用Internetパッケージ。

Internet Office : 米国SRRY社のWindows用Internetパッケージ。

Internet ConnectPPP : 機ディアイティのMacintosh用Internetパッケージ。

Internet Connection : OS/2 Warp用のTCP/IPパッケージ。



Netscapeを動かしてみると、簡単につながってしまった。うーん、簡単&快適。



「月額基本料なし」というのは意外に「使いがい」があるぞ。

DSU : Digital Service Unitの略で回線終端装置とも呼ばれる。NTTからのレンタル/買い取りならば、象牙色の弁当箱がそれ。この箱から出てくるケーブル/コネクタは、通常の電話回線(アナログ)のモジュラー(RJ-11)よりちょっと大きなコネクタ(RJ-45)。

接続アカウント、接続パスワード、Mailアカウント: プロバイダーから送られてくるアカウントには、PPP接続するための「接続アカウント」と、電子メールの「Mailアカウント」の2つがある。当然のことながら、それぞれ違うパスワードになっている。「接続アカウント」のほうはPPP IDと呼ばれることもある。

MacPPP Status: Dialup PPPで接続するまでには、電話をかけ、モデムとモデムがつながり、LCP/IPCP(どちらもPPPのサブプロトコル)と多段階を経る。どれか一つでも誤っているとつながらないので、途中の状態が把握できるダイアログが表示される。

メールの保存は5MB: 活発なメーリングリストであっても、1週間で5MBを超えるほどのメールは100年に一度くらいい。

Liner Internet64」をMacintoshのNubusスロットに差し込む。このカードのRJ-45コネクタにINS64のDSUから出てくるためのケーブルを接続する。続いて専用ドライバーソフト「TimeLiner」と通信状態表示用の「TL Lights」をインストール。これでTA関係の作業はいちおう完了。

次に「MacPPP」と「ConfigPPP」「MacTCP」をシステムホルダーに重ね、コントロールパネルの中に収まった「ConfigPPP」をクリック。出てくるウィンドウの下中央にある「New...」をクリックして【図1】のように新しいPPPサーバーの名前を入力する。

「OK」ボタンを押して「ConfigPPP」の画面に戻り、「Config...」ボタンを押して出てくる画面の「Port Speed」や「Flow Control」などを【図2】のように設定し、ISDN64K同期接続の電話番号を入力した後、「Authentication...」のボタンをクリックする。ここで出てきたウィンドウ【図3】の「Auth. ID」のところには、アスキーから送られてきた「接続アカウント」を、「Password」のところには「接続パスワード」を入力する。「Mailアカウント」ではないので要注意。この2つの項目の入力が終わったら「OK」をクリックして、もとの画面に戻る。

次に「MacTCP」をクリックして出てきたウィンドウ(【図4】)の「More」の部分をクリックする。するとウィンドウが開くので、ここを【図5】のように設定する。「MacTCP」の上の四角の中で「PPP」が黒くなっていることを確認したらMacintoshを再起動する。これで準備完了だ。

◎最後まで気になった メールの5MB制限

Macintoshが起動したらコントロールパネルの中の「TimeLiner」をクリックして、「発信者クラス」の「64K / PPP」のところにあるラジオボタンをクリックする。つい

で、接続される回線スピードとデータのsend / receiveの様様をウォッチするために「TL Lights」を走らせておく。

次に「ConfigPPP」を呼び出し、「Open」のボタンをクリック。するとアップルマークの下の位置に「MacPPP Status」というウィンドウが開き、「Dialing Modem...」から「Network」まで、あっという間に進んでウィンドウは消えてしまう。いつもながらアツけないな、64Kの同期接続は。

Netscapeを動かしてみると、簡単につながってしまった。うーん、簡単&快適.....。

ついでにいつも使っているメールプログラムの「Eudora-J」(これまで自分が使っていたプロバイダーのメールサーバーが指定されていた)を動かしてみると、これもすぐに自分のメールサーバーに接続され、メールを読むことができる。

IP接続サービスってインターネットに接続してくれるだけで、一旦つながってしまえば自分のメールボックスのあるサーバーまでつながって当たり前なんだけど、なんだか不思議な感じだ.....。そんなことを考えていたら、「月額基本料なし」のこのサービスの使い方が分かってきた。

例えば、ダイヤルアップの受け口を持ってない会社や学校のサーバーに自分のメールアカウントを持っている人で、家からでもインターネットでアクセスしてメールを読みたい、快適にネットサーフィンしたい...と考えている人にはぴったりじゃないだろうか?

そこで問題なのが、メールが1か月以上たつと自動的に消されてしまう(「接続ガイド」のほうには90日とあるけど、どっちが本当?)という仕組み。さらにガイドによるとメールの保存は5MBまでという制限があるということも書いてある。

メールでトータル5MBというどれくらいのものになるのか検討がつかないけど、活発なメーリングリストに参加する場合などを考えると、リスト管理者に迷惑をかけてしまわないか、ちと不安だ。それに90日以

上アクセスしないとメールアカウントが消えてしまうのも（実用上問題はないとしても）なんとなく不安なのは事実。

そういうことを考えると、社内のサーバーでメールリストなんかを動かしておいて連絡に使う、噂に聞くPHSのモデムあたりで外から社内サーバーにアクセス.....みたいな使い方をする場合には、なかなかイケるかもしれないぞ！

というわけで、ここんちのサービスは単純で何の特徴もないと思ってたけど、「月額基本料なし」というのは意外に“使いがい”がある、というか、使う側の工夫次第で結構おトク、と結論したのであった。



Config PPPの設定

図1

PPP server name: ASCII-INS64K

ConfigPPPの [New...]をクリックして名前を付ける

図3

Note: The password and id fields may be left blank to indicate that they are to be entered at connect time.

Auth. ID:
 Password:
 Retries: Timeout: seconds

[Authentication...]をクリックして出る画面に接続IDなどを入力

図2

PPP Server Name: ASCII-INS64K
 Port Speed: 57600
 Flow Control: CTS & RTS (DTR)
 Tone Dial Pulse Dial
 Phone num:
 Modem Init:
 Modem connect timeout: 90 seconds

ConfigPPPの[Config...]ボタンを押して出てくる画面を上のように設定する

MacTCPの設定

図4

MacTCP
 LocalTalk PPP
 IP Address:
 2.0.6

PPPが選択されていることを確認して[More]をクリック

図5

Obtain Address:
 Manually
 Server
 Dynamically
 Routing Information:
 Gateway Address: 202.255.181.7
 IP Address:
 Class: C Address: 0.0.0.0
 Subnet Mask: 255.255.255.0
 Net | Subnet | Node
 Bits: 24 0 8
 Net: 12645619 Lock
 Subnet: 0 Lock
 Node: 139 Lock
 Domain Name Server Information:

Domain	IP Address	Default
lab.or.jp	202.32.119.33	<input checked="" type="radio"/>
		<input type="radio"/>
		<input type="radio"/>

[Server]を選択し、[Domain]と[IP Address]を入力する



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp